

内部監査としての不正対応を決定する

「経営を支える内部監査の8つの重点課題とその対応策」〔第5回開催分（全8回開催）〕

- 日時 ● 2014年8月26日（火）14:00～17:00
- 会場 ● 東京・麹町 企業研究会『セミナールーム』
- 講師 ● 藤井 範彰氏 公認会計士・公認内部監査人

大手監査法人で20年近く会計監査を経験し、10数年にわたり内部監査、内部統制、不正調査、リスク管理等のアドバイザー業務を専門に行い、2012年、新日本有限責任監査法人シニア・パートナーを退任。現在、ABボルボ コーポレートオーディット日本担当ディレクター/UDトラックス株式会社監査役として内部監査の統括及び監査実務に従事。一方で内部監査関連の執筆、講演活動にも従事。最近の著書に「内部監査の課題解決法 20」税務経理協会。米国公認会計士（現在 inactive）。

●プログラム●

●講演／内部監査としての不正対応を決定する〔14:00—16:00〕

内部監査部門にとって不正対応は避けて通れない重要課題です。しかし、手を広げればきりがなく、事の性質上、手を抜けない悩ましい分野でもあります。更に、ここには監査活動の中で不正リスクにどう対応するかという問題だけではなく、企業として行う不正リスク評価や通報対応あるいは不正調査に内部監査がどう関わるかという問題も含まれています。これらの広汎に及ぶ不正対応活動についてのその内容や実施方法について理解を深めるとともに、内部監査にふさわしい立ち位置や関与の仕方を検討する材料を提供するものです。まず企業における不正リスク評価、不正監査、通報への対応、不正調査のそれぞれ考え方や作業内容をそこで利用する手法や書式を含めて、実際の事例を紹介しながら解説いたします。それから企業におけるこれらの活動の相互関係、内部監査人の関わり、実務上の留意点等を検討します。

1. 企業における不正対応の活動（不正リスク評価、不正監査、不正調査）のあり方
 - ①経営判断の原則 ②不正の定義と分類
 - ③3つの不正対応活動の企業における位置づけ 他
2. 不正監査の内容と切り出し方、実務ノウハウ（事例紹介）
3. 不正調査の進め方、社内通報制度への対応（事例紹介）

●講演をベースとした（グループ）ディスカッション&総括コメント〔16:00—17:00〕

～参加各社の対応事例や現状の問題意識をシェアする中から課題解決のノウハウ、ヒントを探り実践に繋げていただきます～

●参加要領●

●受講料：1名（資料代含む）

正会員	27,000円	一般	30,240円
-----	---------	----	---------

[本体価格 25,000円 本体価格 28,000円]

* 会員企業一覧は以下の当会のホームページにて、ご確認いただけます。http://www.bri.or.jp

申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あて FAX または E-mailにてお送りください。

折り返し、受講票・会場略図・請求書をお送り致します。

※お申込後のキャンセルは原則としてお受けしかねますので、お申込者のご出席頂けない際は、代理の方のご出席をお願い申し上げます。

●申込先

一般社団法人 企業研究会

担当)居代 E-mail:ishiro@bri.or.jp

〒102-0083 千代田区麹町 5-7-2

TEL 03-5215-3513/FAX 03-5215-0951～2

140177	2014 8/26 経営を支える内部監査の8つの重点課題と～		
会社名			
住所	〒		
TEL	FAX		
部課 役職	フリガナ	お名前	
e-mail			
部課 役職	フリガナ	お名前	
e-mail			

★裏面もご参照ください